



だより



R7.9.16 Vol.19

敬老会に思う

今年も真穴小1年目の職員と一緒に、敬老会で寸劇を披露しました。茶番のような内容でしたが、それでも喜んで見ていただく敬老会の方々のお顔を拝見していたら、「今年もがんばってよかった！」そんな気持ちになりました。真穴地区の敬老会、三世代が一緒に過ごす時間になっていたように思います。温かいですね。とても素敵な行事です。

調べてみました。親孝行の考えを大切にする儒教の教えの影響が強いようですが、祝日として制定されたのは戦後、それも昭和41年の話だそうで、比較的、新しい祝日です。国民の生活を重視するようになった戦後社会を代表する祝日の一つのようにです。私はいつ祝う側から祝われる側になるのか…少し気になります。(笑)

真穴がいいです！

4年生担任の先生！毎日往復100キロ近くになる距離を通勤しています。今年の大雪が降った日は帰路についた方がいいが、自宅にたどり着いたのが翌日だったというエピソードもあります。

校長として、子供はもちろんですが、先生方が働きやすい環境の構築にも私なりに注力しています。

(信じてください！笑)それぞれの先生方との面談時、「通勤ですが、距離的にしんどくないですか？もう少し自宅の近くの学校への勤務も希望できますよ。」そんな話をこの先生としました。開口一番「いえ、できたらここで働きたいです。真穴がいいです。」即答でした。

中にいると当たり前になるかもしれませんが、外から通う我々にとってはとても働きやすい地域です。ありがたいことです！ブラボー真穴！

四方山話真穴 ver2. 其の十九(世界が広がる！)

我が家の庭ですが、もう二十年近く(もっと？汗)、手を入れておらず、足を踏み入れたくないほど、雑草が生い茂る荒れ庭と化していました。息子夫婦が孫を連れて遊びに来た年始、息子が「そーいや、俺が小さい頃、夏はここで水遊びしてよく遊んだけど、これじゃあ、うちの子は遊ばせれんな…。」と、私に挑発的な視線を送ってきました。「おい！息子！じいちゃん、舐めんなよ！」そこから私の庭改造計画がスタートしました。ホームセンターに通い、レンガ、ブロック、タイル、砂、バラス、セメント等々を購入し、雑草を刈り取り、モルタル練って、レンガを敷いて…と、半年近く、休みの日は庭で作業を進めました。『これで夏休み！孫は「じいちゃ〜ん♡」と、毎日庭に水遊びに来るはず！』私の妄想は膨らみ続けました。(もちろん孫はまだしゃべれません…笑)



庭作りをしていると、例えば登校指導で通学路を歩くと、「あ！こんな庭もあるんだ！」とか「そうか！剪定ってこんなふうにする方がいいのか！」とか、今まで視界には入るけど流れていた景色が、意識の中に留まり始めます。同じ景色が全く違った景色になる。二学期早々、高学年の児童が、みかん講座の一環で、段々畑の石積みについて学習を進めました。そこに興味を持った子供は、おそらく学習の前と後では日々、目にする石垣が全く違ったものになっているのではないのでしょうか？どこかに出かけることは、もちろん世界が広がることではあるのですが、普段の生活の中で、「世界が広がる！」というのはこういうことだと思うのです。「何かをやってみる！」やっぱり大事なあと自分の庭作りを通して実感しています。余談ですが、孫が水遊びに来たのは、今夏、一回だけ…。じいちゃんの枕は涙でぬれた2025夏でした…。

----- 切り取り線 -----

便りの感想や学校への要望等ありましたら、お聞かせください。今後の学校経営・運営に役立てていきたいと思ひます。